

注 意 報

農技セ第 5022 号
令和 8 年 7 月 7 日

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長

令和 8 年度農作物病虫害発生予察情報について

令和 8 年度農作物病虫害発生予察注意報第 3 号を発表したので送付します。

令和 8 年度病虫害発生予察注意報第 3 号

令和 8 年 7 月 7 日
徳 島 県

普通期水稻において、6 月 25 日～30 日の調査でいもち病（葉いもち）の発生圃場数が平年に比べて多く、被害の水準や程度を示す発病度も平年と比べて高くなっており、今後、さらなる発生の拡大が懸念されることから注意報を発令します。

生産現場においては、発生状況の把握に努めるとともに、適切な防除指導をお願いいたします。

作物名：水稻（普通期）

病虫害名：いもち病（葉いもち）

1. 発生地域 県北中部及び西部地域

2. 発生時期 6 月下旬～

3. 発生程度 少(前年よりやや多く、平年より多い)

4. 注意報発令の根拠

- (1) 6 月 25 日～30 日に実施した普通期水稻 23 圃場の巡回調査では、葉いもちの発生圃場率が 39.1%と、平年（10.3%）に比べて高く、発病度も 1.83 と平年（0.25）に比べて高い。発生圃場率、発病度ともに過去 10 年で最も高く、前回調査を行った 6 月 11 日～15 日での葉いもち発生圃場率 0.0%から急激に増加している（表 1）。
- (2) BLASTAM（注）による葉いもちの感染好適日は 6 月 23 日以降、県内の複数地点で観測された（表 2）。

注)BLASTAM：アメダスデータ 4 要素(気温、降水量、風速、日照)から、その日が葉いもちの感染に好適であったかを推定するプログラムのことである。葉いもちの発病は、感染好適条件が出現した日から 7～10 日後に始まると考えられる。

表1 普通期水稻におけるいもち病（葉いもち）の調査結果

地 域※	発 生 圃 場 率(%)		発 病 度	
	6 月10～15日	6 月25～30日	6 月10～15日	6 月25～30日
北中部	0.0	23.1	0.0	0.2
西部	0.0	60.0	0.0	3.9
県内全域	0.0	39.1	0.0	1.8

※北中部 鳴門市、板野郡（藍住町、板野町、上板町）
阿波市（吉野町、土成町、市場町）、吉野川市鴨島町、名西郡石井町
西部 美馬市（脇町、美馬町）、東みよし町、三好市三野町

表2 BLASTAM による葉いもちの感染好適条件日の出現状況の推定（6/21～7/5）

アメダス	6/21	6/22	6/23	6/24	6/25	6/26	6/27	6/28	6/29	6/30	7/1	7/2	7/3	7/4	7/5
池田			●	●		●		○			●	●			
穴吹	●		●			●		●			●	●		●	●
徳島				○				●	●						
東祖谷			●	○							○	○			●
蒲生田			●	●				●							
木頭			●	●								●		○	●
日和佐			●	○				●							●
海陽			●					●				●			●

●：感染好適条件出現日
○：準感染好適条件出現日

5. 病徴



図1 葉いもち病斑（左：慢性型、右：急性型）



図2 いもち病による稲体のずり込み

6. 防除法等

- (1) 葉いもちの発生が多い場合は、直ちに薬剤防除を実施する。
- (2) 補植用の置き苗は本病の発生源となるので速やかに処分する。
- (3) 窒素質肥料を過用しないこと。特に、出穂前後の窒素過多は穂いもちが発生しやすくなるので、穂肥、実肥の施用時期・量に注意する。
- (4) 防除等の詳細については、徳島県植物防疫指針を参照するとともに、薬剤の使用に当たっては、必ず農薬ラベル記載事項を遵守する。

表 3 水稻のいもち病防除に本田で使用できる主な薬剤(令和 8 年 7 月 7 日現在)

薬剤名	使用濃度、量	使用方法	FRACコード	IRACコード
ゴウケツモンスター粒剤	3kg/10a	出穂5日前まで 但し、収穫45日前まで/1回	3、16.3	4A
イモチエーススタークル粒剤	3kg/10a	収穫35日前まで/1回	11	4A
ノンプラスバリダダントツフロアブル	1,000倍	収穫14日前まで/2回	16.1、U18、 U14	4A
カスミン液剤	1,000倍	穂揃期まで/2回	24	－
ブラシンフロアブル	1,000倍	収穫 7 日前まで/2回	U14、16.1	－